

環境安全報告書

旭化成メディカルMT 2023



環境安全報告書（第四版）の発行にあたり

常日頃より旭化成メディカルMTの活動にご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。早いもので環境安全報告書の発行も今年で4年目となります。旭化成メディカルMTの環境安全報告書は新型コロナウイルス（Covid-19）による感染が確認された年にスタートしました。2022年までは多くの制約があり、思うような活動がなかなかできませんでした。第5類の感染症に分類されたこともあり、コロナ以前の活動が徐々に復活しています。感染が継続しているため断念は許しませんが、今後はより活発に、そして地域に根差した活動も積極的に取り込んでいきたいと思っています。

大分地区は再開発工事を推進しています。水、電気、ガス、蒸気、圧気等を工場や建屋に安定供給するための周回配管ラックを敷設し、さらに新しい事務所棟の建設や工場、開発棟の改修工事を行っています。近隣にお住まいの皆様には工事に関するご理解を賜り、心より感謝申し上げます。現在のところ工事は計画通りに順調に進み、2023年度末（2024年3月）にはほぼ完成の予定です。地上5階建の新事務所棟は災害時の避難場所として近隣の皆様にもお使いいただくことも想定しており、地域への貢献も担える設計としています。完工後には地域の皆様をお招きする企画も考えていきたいと思っています。

サステナビリティ（持続可能性）やSDGs（サステナブル社会を実現するため2030年までに達成を目指す目標）という言葉が最近よく耳にするようになりました。私たち旭化成メディカルMTは、これからも地域の皆様と

の共生を大切に、その上で継続操業できるよう、地球環境に配慮した経済活動を続けていきます。温室効果ガスの排出抑制、産業廃棄物の削減といった取組みはもちろんですが、従業員がいきいきと、働きやすい職場と感じていただけるような施策を取り入れていきます。メンタルヘルス活動や生活習慣病への対策、がん検診の受診率向上、受動喫煙の防止等の健康経営は、人が財産の会社運営には欠かすことができない重要な取り組みです。また、考え方や嗜好は人によって異なります。個々人の価値観を尊重し、多様性に柔軟に対応できるような整備は今後の社会活動を円滑に進める上で必要不可欠です。時代に乗り遅れないよう、しっかり考えていきたいと思っています。

私たちは、持続可能な社会の実現に貢献できるよう、これからも活動を行っていきます。今後も引き続きご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

2023年7月

旭化成メディカルMT株式会社
代表取締役社長 福田 達也



目 次

ごあいさつ（旭化成メディカルMT社長のごあいさつ）	
旭化成メディカルMTの概要	01
グループ理念とメディカルミッション	03
旭化成メディカルMTの環境安全方針及び環境方針	04
旭化成メディカルMTの活動結果	05
旭化成メディカルMTの労働安全衛生への取り組み	06
旭化成メディカルMTの健康への取り組み	07
旭化成メディカルMTの保安防災への取り組み	09
旭化成メディカルMTの環境保全への取り組み	10
旭化成メディカルMTの地域社会とのコミュニケーション	11

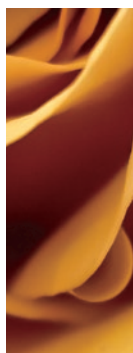


編集方針 -----

対象範囲：大分事業所・延岡地区工場のすべての組織を対象にしています。

対象期間：掲載は2022年度（2022年4月～2023年3月）実績です。但し、写真の一部は期間外のものも使用しています。

旭化成メディカルMTの概要



旭化成メディカル株式会社

事業内容：医療機器の開発・製造・販売
ダイアライザー（人工腎臓）及び関連商品の開発・製造・販売
血液浄化（アフェレシス）商品の開発・製造・販売
輸血用白血球除去フィルター（セパセル）の開発・製造・販売
生物製剤精製工程用ウイルス除去フィルター（プラノバ）などの開発・製造・販売

本社所在地：東京都千代田区

代表者：代表取締役社長 四ノ宮 健

創業：1974年7月



旭化成メディカルMT株式会社

旭化成メディカルの開発と製造を担う100%グループ会社で、大分県大分市と宮崎県延岡市を拠点として6工場と2技術開発部及び共通部門からなる。

事業内容：ダイアライザー（人工腎臓）及び関連商品の開発・製造
血液浄化（アフェレシス）商品の開発・製造
輸血用白血球除去フィルター（セパセル）の開発・製造
生物製剤精製工程用ウイルス除去フィルター（プラノバ）などの開発・製造

本社所在地：大分県大分市

代表者：代表取締役社長 福田 達也

創業：2013年10月



旭化成メディカルMT 大分事業所全景



岡富工場



プラノバ工場



旭化成メディカルMTの製造拠点と製品例

大分
事業所

人工腎臓工場、アフエレシス工場
セパセル工場、プラノバ大分工場

延岡
地区

岡富工場、プラノバ工場



ダイアライザー製品



アフエレシス製品



セパセル製品



プラノバ製品

グループ理念とメディカルミッション

グループミッション

私たち旭化成グループは、世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します。

グループミッションとは：旭化成グループの普遍的な「存在意義」。時代環境や社会の求めるものが変わっても、変わることなく、旭化成グループとして永遠に追求し続けるもの。それは世界の人びとを想い続けることに他なりません。

グループビジョン

「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して、社会に新たな価値を提供していきます。

グループビジョンとは：旭化成グループの「目指す姿」。それはミッションを基盤としながら、時代の要請に合わせて目指していく事業活動の方向性です。

グループバリュー

「誠実」誰に対しても誠実であること。

「挑戦」果敢に挑戦し、自らも変化し続けること。

「創造」結束と融合を通じて、新たな価値を創造すること。

グループバリューとは：旭化成グループで働く人財が必ず持つべき「共通の価値観」。多様な人財に共通する、ミッション追求の過程における基本的な姿勢です。

グループスローガン

Creating for Tomorrow

私たち旭化成グループの使命。それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、次の時代へ大胆に応えていくために、私たちは、昨日まで世界になかったものを創造し続けます。

メディカルミッション

病気と向き合うすべての人々とともに。

わたしたちは人々がより良い生活を送れるよう、

“いのち”を支える医療のさらなる進化のために

信頼できるヘルスケアソリューションを提供していきます。

**Pioneering Innovative and Reliable Healthcare Solutions
for Better Quality of Life.**

旭化成メディカルMTの環境安全方針及び環境方針

環境安全方針

環境安全活動は、旭化成グループの重要な経営基盤のひとつであり、全事業領域で取り組んでいます。旭化成メディカル／旭化成メディカルMTの環境安全方針を以下に示します。旭化成メディカルMTは旭化成メディカルと共に実直に環境安全活動を推進します。

環 境 安 全 方 針

“いのち”を支える医療への信頼と期待に応えるために、
私たちは、

- ・従業員の健康保持・増進を図り、快適な職場環境を形成します。
- ・従業員と地域社会の安全を確保します。
- ・地球環境に充分配慮し、環境負荷の低減を推進します。
- ・安全・安心・安定な製品・サービスを提供します。

2023年 4月 1日

社長 四宮 健

AsahiKASEI 旭化成メディカルグループ

環境方針

旭化成メディカルMTは、環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を取得し、継続的にシステムの改善を図っています。大分事業所の環境方針を右に示します。延岡地区部場は、旭化成延岡支社の一部場として、同様にISO14001を推進しています。

環 境 方 針

旭化成メディカルMTは、安全・安心な製品・サービスを安定的に提供することにより、医療の向上に貢献することを基本方針としています。医療機器製品の開発、生産等の事業活動を行なっている大分事業所は、地球環境の保護と地域環境の保全が経営の最重要課題のひとつであると認識して環境活動に取り組んでいます。

- 1) 環境に関する法律・協定はもとより、自らの責任において定めた自主基準を順守します。
- 2) 住宅地が隣接した立地条件を踏まえ、工場周辺の豊かな自然を守る為に環境汚染の予防に努め、地域社会との共生を図ります。
- 3) 天然資源保護及び地球環境保護の為に、省資源・省エネルギーに取り組みます。
- 4) 循環型社会の形成を目指し、廃棄物の削減・再利用及びリサイクルを推進します。
- 5) 環境マネジメントシステムを確立し、この環境方針を全従業員に周知すると共に社外にも公表することにより、継続的に環境負荷の低減を行います。

2020年 5月 1日
旭化成メディカルMT株式会社
代表取締役社長

福田 達也

旭化成メディカルMTの活動結果

2022年度 目標の達成状況

★★★★ 達成 ★★ ほぼ達成 ★ さらに取り組みが必要

項 目	目標（課題）	実績結果	達成度評価
 労働安全 衛生	労働災害の撲滅	休業災害はありませんでしたが、 不休災害 1 件、応急災害 5 件がありました。	★
	交通安全活動の強化 特に交通加害事故の低減 (メディカル重点項目)	通勤災害は変化なし（7→7 件）です。 但し、交通加害事故は減少（8→0 件）しました。	★★
	生活災害防止 ／基本安全行動の順守徹底 (メディカル重点項目)	各部場で生活災害防止を重点項目として、 基本安全行動順守活動を進めましたが、 不順守による労災が発生しました。	★
 健 康	メンタルヘルス活動強化 (メディカル重点項目)	e 診断の総合健康リスクは、良好な数値を推移 しています。大分事業所のメンタル疾患休業数 は過去 10 年で最少となりました。	★★
 保安防災	保安事故の撲滅	重大保安事故は発生しませんでした。軽微事 故が 1 件発生しました。 ● アフェレシス工場で溶剤（第 4 類第 2 石油類） の漏えい	★
	変更管理／ リスクアセスメントの実施 (メディカル重点項目)	保安関係を含め、全般に抜けなくリスクアセ スメントを実施しました。	★★★★
 環境保全	環境事故の撲滅	環境事故の発生はありませんでした。	★★★★
	循環型社会の形成 最終処分（埋立）率 0.1 % 以下の達成	最終処分率の目標は達成しました。	★★★★
	地球温暖化防止 エネルギー消費原単位の低減 5 年間平均 1 % 削減	削減目標を達成しました。資源エネルギー庁事 業者クラス分け評価制度で 6 年連続の S クラス の評価となる見込みです。	★★★★



旭化成メディカルMTの労働安全衛生への取り組み

マネジメント体制

事業所（地区）の方針・目標のもと部場ごとに目標・課題を設定し、従業員や場内で働く人々の安全を確保するための体制を構築しています。安全衛生委員会は月1回開催し、職場における労働衛生の水準の向上を図っています。

労働災害防止活動

5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）、HHK（ヒヤリ・ハット・気がかり）、危険予知、パトロール、事例検討等の従来の安全活動をベースに労働安全衛生マネジメントシステムの考え方を取り入れリスクアセスメントを徹底することで労働災害防止に取り組んでいます。

リスクアセスメントに関する活動

① 潜在危険性の抽出

労働災害を防止するためには、職場の潜在危険性を抜けなく挙げることが必要です。強制発想（トラブル想定）の視点を入れて、モノの不安全な状態（設備、有害物、騒音など）や人の不安全な行動、その組み合わせで発生する危険事象に対する災害想定を幅広く実施します。

② リスク評価

抽出された職場の潜在危険性について、災害の重篤性と災害に遭遇する頻度との組み合わせからリスクを定量化し、優先順位を付けます。リスクの高い重大リスクから低減対策を実施します。

③ 重大リスク低減対策

重大リスク低減対策としては、モノの不安全な状態を安全化する本質安全化（危険作業排除、自動化等）と安全防護が極めて有効です。重篤な災害に至りやすい、機械への挟まれ・巻き込まれ型災害の対策として、機械設備等の本質安全化と安全防護（隔離と停止）による対策を重点的に推進します。

職場巡視

職責者、衛生管理者、産業医や社長など各層が定期的な職場巡視を行い、快適な職場環境づくりを推進しています。更に小集団活動として5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動を積極的に展開し、職場環境改善を行っています。

生活災害防止活動

滑った、転んだに起因する怪我等家庭でも起こり得る労働災害を総称して「生活災害」と呼んでいます。この生活災害防止には、「足元に注意して、落ち着いて歩く」「階段／ステップは、手すりを持ち昇降する」などの安全行動を繰り返し呼び掛け、災害のキッカケを作らないようにすると共に手すり設置や声掛けスピーカー活用、注意喚起表示や転倒防止の体力測定などで従業員自身が体力を自覚し、健康維持に努めるなどハード・ソフト両面で対応を行っています。

機械安全実務講習会

挟まれ巻き込まれ等による労働災害の防止を図るため機械安全リスクアセスメントに全力で取り組んでいます。大分事業所では、リスクアセスメントを実践できる人財育成のため機械安全実務講習会を開催しました。新型コロナ禍でオンライン研修となりましたが外部専門家講師により指導で、担当する従業員の理解が進んだと思います。延岡地区部場もより実践的な機械安全キーマン研修、機械安全実践研修により機械安全の高度化を進めています。

挟まれ巻き込まれ相互確認

大分事業所では、これまでも職場単位では挟まれ巻き込まれ等の危険部位の対策を進めてきましたが、2021年度に他職場からの違う目で現場を見ることで対策の不十分な箇所が無いかを確認する相互確認を始めました。今後も繰り返しの確認で、本質安全化、安全防護を確実にしていきます。

VR災害体験システム導入

我々が経験できない事故をリアル（視覚を含めて）に疑似体験できるもので、従来型体感装置に比べ、より人の本能に訴えるものです。従来型と併用して利用して、従業員の安全意識や安全感度の向上を図っていきます。



VR災害体験訓練の様子



旭化成メディカルMTの健康への取り組み

健康経営宣言

旭化成グループは、健康に関する取り組みを全社経営課題と位置づけた「健康経営」*を展開しています。2020年度に「健康経営宣言」を発出し、同宣言において掲げた、「グループ健康経営ビジョン」に基づき、「健康経営」をさらに推進していきます。

*「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

【健康経営宣言】

旭化成グループは、私たちの強みである「多様性と変革力」を武器に「持続可能な社会」の実現に貢献し、「企業価値の持続的向上」を追求しています。この実現には、「人財」がすべてだと考えます。

従業員が心身共に健康で、皆が活躍できる環境を会社として整備することが今後、ますます重要になっていきます。これまで展開してきた健康保持・増進の取り組みをさらに発展させた「健康経営」を、「グループ健康経営ビジョン」を掲げて推進することを宣言します。

【グループ健康経営ビジョン】

旭化成グループは、「一人ひとりの活躍・成長」と「グループの生産性向上・発展」を通じて、さらに「持続可能な社会」の実現に貢献します。そのため会社は、従業員と家族が心身共に健康で、従業員の働きがいと生きがいを高めていきます。

健康経営の実現に向けて

旭化成グループでは、「従業員と家族の心身の健康保持・増進」を、健康経営の基盤と考えており、従業員の休業日数増加の原因となっているメンタルヘルス不調、がん、生活習慣病関連疾患等への対策を進めています。

具体的な取り組みとしては、メンタルヘルスケアの推進、生活習慣病重症者やメタボリック症候群該当者の減少、がん検診の受診率向上、受動喫煙防止、睡眠の質・量向上の5つを重点的に行っています。

健康づくり運動

大分事業所では、2015年度から「やっちゃんかえ☆ヘルスラリー」で健康づくり運動を進めています。

体力向上と従業員間のコミュニケーションアップを図ることを目的に、どのような事でも良いので体を動かそう、そして従業員同士でチームを組み、お互い励ましあいながら続けようという取り組みです。2019年度は禁煙チャレンジ、2020年度は体重の5%削減を目指したダイエットチャレンジを対象に加えて活動を活性化させています。年々、参加者が増えて2022年度も700名を超える従業員が参加しました。

延岡地区部場もヘルスラリーやその他の健康づくり活動で従業員の健康管理を支援しています。

メンタルヘルス対策

こころの健康支援として、ストレスチェック（e診断）や各種メンタルヘルス研修を毎年実施しています。ストレスチェックでは高ストレス者への面談を行うなど、メンタルヘルスへの早期対応を行うと共に組織診断に基づいた職場環境改善に努めています。また、大分事業所では、従業員を直接指導するリーダー層の活躍を期待して、2017年度よりラインポスト研修を始めました。6回目を迎えた2022年度は、「自分を活かし人を活かすコミュニケーション技術」をテーマに外部講師を招いてグループ演習を交えた研修を行いました。



ラインポスト研修の様子

新型コロナへの取り組み

2022年度も引き続き、新型コロナウイルスの対応に追われた一年でした。

マスク着用や手洗いの励行などの基本的な行動規範を順守した上で

- 食堂は時間差をつけて人数制限した上に同一方向に座る
- 机の前には遮蔽板（アクリル板）を置く

など様々な工夫を凝らして、従業員の安全（健康）を守ってきました。今後は、様子を見ながらコロナ前の状況に戻していきたいです。

職域接種の実施

大分事業所の従業員とご家族、構内協力会社社員を対象に新型コロナワクチンの職域接種を実施（追加3回目：4/11～4/27、4回目：12/7、13）しました。

“いのち”を支える医療に貢献する従業員等の安全・安心に少しでも役に立ったのなと思います。



職域接種の様子

インフルエンザワクチン予防接種

大分事業所での接種を希望する従業員に対して、11月の6日間で約400名に予防接種を行いました。

延岡地区部場も同様にインフルエンザ接種を実施し、感染予防に努めました。



旭化成メディカルMTの保安防災への取り組み

プラントの保安防災管理

保安防災管理においては、プラントの機能を健全に保ち、安定・安全に運転することが重要です。プラント建設時にリスクアセスメントを行うと同時に、既設プラントに対して火災・爆発防止、老朽化などの視点によるプロセス見直しを繰り返すことにより、プラントにおける保安事故の撲滅を図っています。



岡富工場 蒸留設備



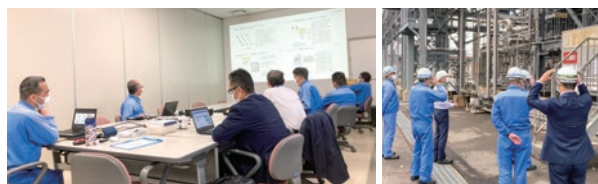
プラノバ大分工場 蒸留設備

プラントの安全・安定生産への取り組み

安全確保を図る上でも、プラントの特性に適した方法が必要になってきます。この考え方に則り、「計画保全システム」を構築し、保全PDCAを回しています。計画保全システムの特徴は、工場ごとに機器別に保全方法や周期等を定めた「機器別管理基準」を策定し管理を行っていることです。

保安防災専門査察〈診断〉

危険物製造（蒸留）設備を持つ工場（プラノバ大分工場、プラノバ工場、岡富工場）を対象に保安防災上の実力を総合的に把握し、課題があるようなら計画的な改善を目指すとの目的で、保安防災の専門家による診断を受けました。結論では、3工場共に爆発、漏えいのリスクは小さいとの判断になりましたが、合わせて運転管理の対応力を高める必要性が有るとのコメントがありました。真摯に対応していきます。



保安防災専門査察の様子

緊急事態への対応

保安事故あるいは大規模地震などの緊急事態が万一発生した場合に備え、防災体制を内規に定めて運用しています。緊急事態発生時の安全確保と隣接地域への影響を最小限に抑えるべく円滑な防災活動を行う為には日頃の防災訓練が大切です。防災訓練は年間スケジュールを立て、定期的に実施しています。2022年度は総合防災訓練の他、EMC（緊急連絡）訓練や消防署への速やかな通報を行う為のホットライン通報訓練を実施しました。また、消火班など小さな単位で色々な視点での部分的な防災訓練を実施し、個々のレベルアップを図る“部分訓練”を進めています。先駆けとなったプラノバ工場では、消防署と合同で総合防災訓練を実施できるまでになりました。クリーンルーム発災を想定した初期消火（消火器・屋内消火栓）や暗所避難等の訓練を精力的に実施しています。大分事業所でもこの部分訓練を取り入れ備えを確実にしていきます。



総合防災訓練（大分事業所）の様子

危険物の漏えい（保安軽微事故）

大分事業所での溶剤の漏えい事故に関して、地域の方々にご迷惑、ご心配をおかけしました。ドラム缶の窒素シール圧を制御する減圧弁の故障等によりドラム缶の内圧が上昇し、液を押し上げて耐圧が低いホースのカプラ部分から溶剤が漏れました。今回の事故を反省に再発防止策の徹底を図ります。



旭化成メディカルMTの環境保全への取り組み

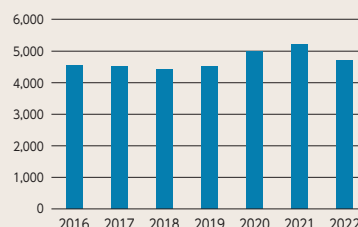
マネジメント体制

大分事業所及び延岡地区部は、ISO14001の認証を取得しています。大分事業所では、2021年度より環境保全活動に関するシステムの更なる発展を目指して審査登録機関を一般財団法人 日本品質保証機構（JQA）に移管しました。ISO14001をベースにしたマネジメントシステムのもと、資源循環の推進、地球温暖化対策やVOC対策の検討を進めています。

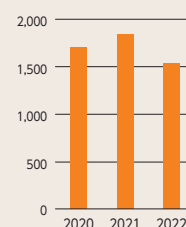
産業廃棄物の排出抑制・再資源化への取り組み

産業廃棄物の排出抑制・再資源化に取り組んでいます。現在、産業廃棄物の総量は約5,000トン／年、プラスチック類は約1,500トン／年の排出量となっています。プラスチック類は、昨年度対比で約300トンの削減となりました。特に大きいのは岡富工場の約100トンと大分事業所の約200トンの削減です。岡富工場は発生抑制、大分事業所は現状把握及び再資源化で削減を進めました。今後は、複合材料の分別によるリサイクルの更なる促進などの対策を進めることで排出量の削減を目指します。

産業廃棄物
(総量) [t/年]



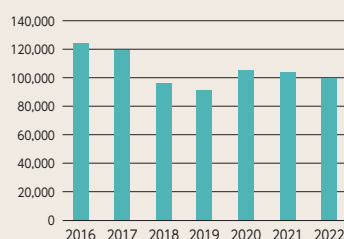
産業廃棄物
(プラスチック類) [t/年]



地球温暖化対策への取り組み

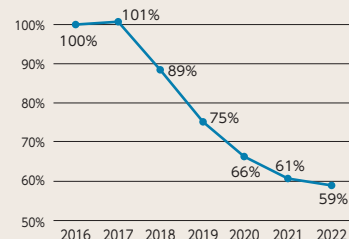
2016年度から2019年度に掛けて工場集約化を含めた生産効率の改善を図り温室効果ガスの排出量を削減してきました。その後の生産量の増加で近年は下げ止まっていますが、2022年度の温室効果ガスの排出量は約10万t-CO₂で2016年度を基準にした場合、約2割の削減となっています。エネルギー原単位でも2016年度を基準にした場合、約4割の改善を果たしています。資源エネルギー庁事業者クラス分け評価制度で6年連続のSクラスの評価となる見込みです。

温室効果ガス排出量 [t-CO₂]



※ 温室効果ガス：
「地球温暖化対策の推進に関する法律」により7種類の温室効果ガスが指定されており、事業者はその排出削減努力が求められています。

エネルギー原単位指数推移



※ エネルギー原単位指数
2016年度を100%とした指数
「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」では、(生産量当たり)エネルギー原単位を過去5年平均で年率1%改善していくことを目標にしています。

「まちもり」アクション (=旭化成グループの生物多様性保全の取り組み)

従業員の生物多様性保全に対する理解と認識を高める取り組みです。緑豊かな大分市や延岡市ですが、活動を通じて地域の動植物が暮らしやすい環境を考えていきます。大分事業所では高木のスジダイが5m近くになりました。

大分再開発工事が始まり周辺は騒がしくなっていますが、象徴としての「まちもり」はこれからも維持していきます。

注) 「まちもり」ポット：
高木、中木、低木など高さの違う植物の組み合わせで、地域の植生を表現したもの



「まちもり」ポット (地域の植生を考慮して植栽を選定)



現在の「まちもり」ポットの様子



旭化成メディカルMTの 地域社会とのコミュニケーション

献血支援

大分県赤十字血液センターの依頼に応じて大分事業所内で従業員に協力を募ったところ、8月と1月の2回で延べ100名近くの方に献血して頂きました。事業所としては今後とも輸血用血液の確保に場所、機会を提供していきます。

延岡地区部場でも同様に献血事業を支援しています。



献血の様子

照射滅菌棟の消防／警察説明会

6月14日に東警察署から11名、6月17日に東消防署から17名の参加者に来場して頂き、大分事業所の現場説明会を実施しました。事業所ではガンマ線滅菌施設を擁していることから火災その他の緊急時の措置に対して、消防、警察に事前に施設情報を知っておいて頂くことが重要です。また、消防、警察との連携を強めることは事業所の保安防災や防犯体制の向上に寄与すると考えます。消防、警察のご協力を得ながら今後とも定期的に説明会を開催する予定です。



説明会の様子

産業保健実習生受入と心理実習講師派遣

大分事業所は大分県内の大学の教育運営に協力しています。産業保健の分野では、9月に大分大学の要請に応じて、10日間、健康管理室に総合実習として学生2名を受け入れました。また、12月には別府大学より講師派遣の依頼があり人間関係学科公認心理師コース4年生及び臨床心理学専攻修士課程1年次生に対して「旭化成メディカルMTの健康管理室の紹介及び要心理支援者への支援について」のテーマで大学内での実習(事例検討及び発表)を受け持ちました。



講師派遣実習の様子

地域共創報告会（大分事業所）

地域との共生を目指した活動のひとつとして、近隣地区の自治会長・連絡協議会長に出席して頂き、2月に大分事業所の環境安全活動等の報告会を開催しました。報告会では会社概要や事業所の保安防災・環境保全等の活動を報告し、主な施設の見学を行いました。



報告会の様子

工場見学と講師派遣事業

「地域に開かれた工場」を目指す私たちにとって、地元の学校に通う児童・生徒のお一人おひとりが大切なお客様です。大分事業所では、社会科見学で訪れた小佐井小学校3年生の皆さんに、動く機械を単に見るだけでなく、疑似体験などを通して楽しみながら「ものづくり」を学んで頂きました。また、延岡地区部場では延岡市教育委員会等が主催する「講師派遣事業」にも協力しています。



工場見学の様子

病氣と向き合う
すべての人々とともに。



